

＜今日の説教のポイント マタイによる福音書1章18-25節＞

1 処女降誕 — 聖霊によって — 神様の新しい創造の出来事！

初めてこの箇所を読んだら驚くのではないのでしょうか、「男女が関係しない(25)のに、子ができるなんて生物学的にあり得ない」と。それはこの世界の原理から考えるときには正しい言い分です。しかし、この世界を創造された神様が次の新しい創造を起こされるなら（「イエス・キリストの誕生」18）、この世界の原理を超えた出来事が起こると考える方がむしろ新しい創造にふさわしいのではないのでしょうか。世界が創造された時の箇所には神様の霊が出て来ます（創世記1:1-2）。今日の箇所でも聖霊によって起こったことが強調されています（「聖霊によって」18, 20）。聖書の処女降誕の話は、神様の新しい創造の出来事なのです！

2 この出来事が持つ意味は？ 私たち自身とこの世界の希望の根拠。

では、なぜ神様はそんなことを起こされたのでしょうか？ この出来事の意味については、今日の箇所の後半に記されています。「その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うためである」(21)。また、この御子の出現によって、「インマヌエル、神は我々と共におられる」(22)と思えるようになると。「罪」とは、聖書では、私たちが造り主なる神様抜きで生きようとするものであり、そのことによって起こす様々な罪とその結果訪れる状態（自己卑下や孤独も入る）も指しています。よって、私たち人間はこの神様に立ち帰り、この神様のもとに生きることによって、その罪から解放されるのです。神様はこの御子によってそのような道を用意して下さったのです！ 教会は、処女降誕によってこの世界に生まれて来て下さったイエス・キリストだからこそ、「神が人となられた（受肉）」と告白して来たのです。神様は、人間として本来あるべき所に私たちを招き入れるために、御子なる神として罪深い人間の歴史の中に入って来て下さったのです。ですから、処女降誕の出来事は、罪に満ちた私たち自身とこの世界全体にとって、起こるはずない出来事でも無くてもいい出来事でもなくて、絶対必要な出来事、それによって希望が持てる神の出来事なのです。「世界の運命は一人の人、イエス様を神として認めるかどうかにかかっている」（ドストエフスキー）。